

路線バスにおける系統番号への提案

—京都のバスはなぜ“わかりにくい”のか？—

京都産業大学文化学部京都文化学科
渡邊 一平

京都市中心部では、京都市営バス、京都バス、西日本ジェイアールバス、京阪バスといった複数の路線バス会社によって数多くのバス路線が運行されており、市内での輸送という点で大きな役割を担っている。一方で、膨大な数のバス路線によって構築された複雑な路線網に対し、京都を訪れる観光客をはじめとして、京都に在住する学生や生活利用者までもから「京都のバスはわかりにくい」という声が多く聞かれる。路線バスが「わかりにくい」という現状は、効率的な輸送ができないことや利用者からの敬遠に繋がることだけでなく、観光客にとっては旅行の満足度、ひいては京都という都市に対する満足度にも直結するものになると思われる。その「わかりにくさ」を和らげ、利用者への「わかりやすい」案内の一助となるのがバス路線ごとに個別に付与される「系統番号」である。しかし、利用者のわかりやすさのために設定されているはずの系統番号自体にも、利用者が「わかりにくい」と感じてしまう一因となり得る要素が含まれていると筆者は感じている。本稿では、路線バスにおける「系統番号」に焦点を当て、京都市内のバスに感じられる「わかりにくさ」に繋がっていると考えられる課題点を挙げて考察し、そこで得られた考察や先行研究を反映した新しい系統番号を提案することを主題とする。具体的な提案内容として、「アルファベットと数字を併用した系統番号の活用」、「循環系統における周回方向の区別」、「京都市営バス、京都バス、西日本ジェイアールバスの3社にまたがった共通の基準を用いた系統番号の付与」の3点を中心に複数の改善点を挙げている。また、系統番号を変更するにあたってのメリットと課題点についても同時に考察し、論中に提示している。